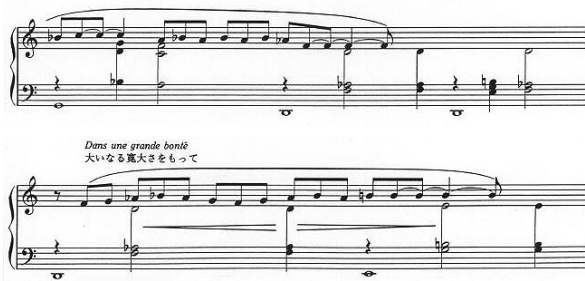


■ エリック・サティ作曲グノシエンヌにみられる言葉 ■

譜例3 : Avec étonnement ~ 驚きながら

楽譜に書かれてあるものに対して機械的に反応するのではなく、初めて音符を音にしたときの新鮮な驚きを忘れずに、謙虚な気持ちをもって取り組みなさいという指示です。その結果演奏家はただ音符を音に置き換えるのではなく、楽譜から得られる様々な情報を元に、どうすれば感動的な音楽になりえるかを考えるようになります。



グノシエンヌ2番より

譜例4 : Sur la langue ~ 舌の上で

暖かい舌の上で氷が溶けていく様を思い浮かべてください。溶け終わった後、物体は消えているのに冷たい感触は残っている。つまり曲の最後の部分を唐突に終わらせないようにという指示です。当然その前に示されている f (強く) のまま演奏するのではなく、この短い距離の中で音量、速度ともに人に気づかれないように落としていかなければなりません。



グノシエンヌ1番より

譜例5 : Enfouissez le son ~ その音を埋めて

あるものがさらさらと砂の中に埋もれていく様子を想像してください。砂の下にある物それ自体に変化はありません。変わってくるのは埋まっていく(曲を終わらせる)過程で、曲のフォルムはそのまま、徐々に小さく遅くしていきなさいということです。



グノシエンヌ3番より

3 結論

言葉から受けるイメージの違いは、演奏家に限らずすべての人それぞれに異なることだと思います。

言葉が発するイメージとそれに触発される人間との相互関係で絡まりながら、ある時は止揚し、ある時は下降し、ある時は凍結するといった多くの可能性をはらんでいきます。こうした問題は一言で片づけられないというのが結論のようです。

ある一人の演奏家の感性ということで表現してみました。皆様のお役に立てることを望んでおります。

■ 柴野さつき について

桐朋学園音楽科卒業。東京音楽大学ピアノ科演奏家コース卒業。渡仏後は、J.J.バルビエに師事。数多くのソロアルバム制作やコンサート活動を通じて、日本でのエリック・サティの第一人者として知られる。

<http://www.hf.rim.or.jp/~satsuki/>

■ 参考文献

サティピアノ曲集 音楽之友社 編集解説 柴野さつき
楽典～理論と実習 音楽之友社

■ 協力

尾島由郎 (作曲家/音楽プロデューサー)